

## 【STEP3】（変える）SDGs × 組織連携 × 変容 × 自分

**実施の目的：**外部組織と連携しながら課題解決を図り、Step1、2と経て自分の変化を振り返り、自らの生き方やあり方を問い直す。

**生徒の目標：**① SDGs ○○を中核に外部組織と連携して課題解決に挑む、②成果や課題を後輩に継承する、③探究手法を進路探究に活かす

**付属資料：**ワークシート

目安時間	内容		
導入 1～2コマ	<p style="text-align: center;">「何をどう持続させる？」〈ワークシート pp.1-14〉</p> <p><b>【問い】 課題を ESD 目標で捉え直すとは？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ESD 目標の理解〈ワークシート pp.5-12; 資料1〉</li> </ul> <p><b>【ワーク】 英語定義文を自校に合わせて日本語に意識する『OO版 ESD 目標』</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブレインストーミング 8つのキーコンピテンシー（能力）をグループに割り振り、タイトルと定義文を自校に合わせて意識する</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <b>Strategic competency:</b> the abilities to collectively develop and implement innovative actions that further sustainability at the local level and further afield.             </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <b>戦略的能力：</b> ○○の少子高齢化を食い止める、革新的で持続可能な行動（解決策）を地域及び離れた地域で住民と共に考え、実施する能力             </td> </tr> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>記録 グーグルスライドで共同編集する</li> <li>探究プロジェクトの概要作成〈ワークシート pp.13-14〉 グーグルクラスルームに提出する</li> </ul> <div style="margin-top: 20px;"> <p style="text-align: center;">意識の正確さはあまりこだわらないで！英語でできない場合は日本語を使用する。</p> <p style="text-align: center;">他のチームはあんなこと考えてるんだあ</p> </div>	<b>Strategic competency:</b> the abilities to collectively develop and implement innovative actions that further sustainability at the local level and further afield.	<b>戦略的能力：</b> ○○の少子高齢化を食い止める、革新的で持続可能な行動（解決策）を地域及び離れた地域で住民と共に考え、実施する能力
<b>Strategic competency:</b> the abilities to collectively develop and implement innovative actions that further sustainability at the local level and further afield.	<b>戦略的能力：</b> ○○の少子高齢化を食い止める、革新的で持続可能な行動（解決策）を地域及び離れた地域で住民と共に考え、実施する能力		

目安時間	内容
<p>展開① 2コマ + 2コマ</p>	<p style="text-align: center;"><b>どの探究手法を使う？〈ワークシート pp.15-17〉</b></p> <p><b>【知る】統計手法</b>          ・探究テーマの設定、情報収集、分析、まとめ方を学ぶ</p> <p>(例)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="370 427 695 857" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">i ○○○○○○○○ □□高校□年 □○○○</p> <p style="text-align: center;"><b>ii 要旨</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">iii 背景・目的</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">v 結果・考察</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">iv 研究手法</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">vi 結論・まとめ</div> </div> <p style="text-align: center;">vii 引用文献、参考文献</p> </div> <div data-bbox="703 427 1023 857" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><small>(中略)</small></p> <p>Web サイト <a href="http://global.academy.or.jp/">http://global.academy.or.jp/</a>にてダウンロード可能。PDF形式の発行も可能。</p> <p style="text-align: center;">○○○○ (タイトル)</p> <p style="text-align: center;">□□□□ (English Title) □□□□ (要旨)</p> <p>1. 研究目的 (目的)</p> <p>2. 研究背景 (背景)</p> <p>3. 研究手法 (方法)</p> <p>4. 結果・考察</p> <p>5. 結論・まとめ</p> <p>参考文献 (参考文献)</p> <p><small>(中略)</small></p> </div> </div> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">コンテスト等のゴールを見せませす。ライバルは校外！</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid green; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;">よし！がんばろう！</p> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">「構想発表会」を事前に設定するのも良いでしょう。</p> <p><b>【中間発表会】〈ワークシート pp.18-19〉</b>          ・以下の基準で探究行程を評価する          ① SDGs との関連が自覚できているか          ② 統計的解釈があるか          ③ 所属学校集団以外との連携があるか          (学校・地縁組織・NPO/NGO・学術/研究機関・自治体・企業)</p>
	<p><b>探究活動例</b> <span style="float: right;">これまでの探究活動の繋がりを活かして課外活動として展開します。</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林組合や地元企業と共同で小学生への木育プログラムを作成実施。ビジネスプランに基づき事業所と間伐材の商品化。積み残した課題は下級生へ。</li> <li>・ 地方気象台と地元大学の指導に基づき防災プランを学校と自治体へ提案。教科英語とも連動させ、海外学校と防災をテーマに交流。小学校への出前授業立案。</li> <li>・ イベントを地元 NPO と企画。学校行事と絡めてプログラム開発。集客力を高めるためアプリ開発企業に相談。</li> </ul>

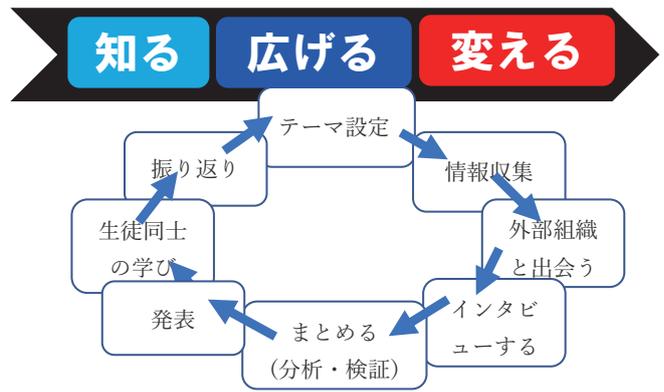
目安時間	内容
<p>展開② 1コマ + 1コマ</p>	<p style="text-align: center;"><b>良いプロジェクトとは？〈ワークシート pp.20-21〉</b></p> <p><b>【学年発表会①】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年でベスト3プロジェクトを選出する</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  <div data-bbox="710 421 906 680" style="font-size: small;"> <p>【新編】中・高学年が制作した「SDGs」に関する動画の発表会。各グループが制作した動画を上映し、発表者から質問を受け、観客からコメントが寄せられた。発表者からは「SDGs」に関する知識が深まったと好評だった。また、制作した動画がSNSで公開されたことで、地域内外に広く知られることになった。</p> </div> </div> <p style="text-align: right;">外部の大人や専門家とつながると課題へのアプローチ法が激変します。</p> <p style="text-align: center;">自分たちにもこんなことができる！</p> <p><b>【学校発表会②→地域内外発表会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他学年選出プロジェクトも含めて、外部組織関係者を招いた探究成果発表を実施する</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">先輩すごい！</p> <p style="text-align: center;">若いのもやるな！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテスト等に応募し発表する</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p style="text-align: center;">ドキドキ…</p> <p style="text-align: center;">まだまだだあ…</p> <p style="text-align: center;">厳しい…</p>
<p>まとめ 2コマ</p>	<p style="text-align: center;"><b>自分の在り方生き方とは？〈ワークシート pp.22-25〉</b></p> <p><b>【問い】 良いプロジェクトを実現するには？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究成果と課題を下級生に引き継ぐ</li> <li>・応募コンテスト一覧をまとめ、校内で共有する</li> <li>・〇〇版 ESD 目標を下級生に引き継ぐ</li> </ul> <p style="text-align: right;">次年度も縦割り探究を！</p> <p><b>【まとめ】 変わった vs 変わらなかったこと&amp;変えたかった vs 変えるべきだったこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスポートにまとめる</li> <li>・進路実現に向けて探究手法を整理する</li> </ul> <p style="text-align: right;">様々な手法を活用してキャリア形成を一緒に楽しむ！</p>

<補足>

関心のある進路や職業と関連させて個人で取り組むこともできます。Step1、2の探究活動を経て、インタビューや統計等の手法も取り入れながら、最後は個々の進路探究に繋がります。進路探究の成果等も最下級生に発表すると、憧れのモデルを身近に見つけ、これから自分に起こる学校生活や行事等の目標・目的を明確化できます。最上級生は内容を噛み砕いて発表するスキルを磨き、物事の本質に迫る機会を得ることができます。発表会の企画運営も生徒に任せるとよいでしょう。

★各ステップのポイント

- 1 テーマ設定は？
- 2 情報収集は？
- 3 どのような外部組織と連携する？
- 4 インタビュー方法は？
- 5 まとめの方法は？
- 6 発表の場は？
- 7 生徒同士の学びをどう促す？
- 8 自身の生き方・あり方を考える振り返りは？



	Step1 [知る]	Step2 [広げる]	Step3 [変える]
①テーマ設定	・SDGs と関連し、地域と関わりのあるテーマを教師が用意。生徒が選択する。	・世界の課題から、生徒がテーマを設定する。	・ESD 目標を地域版に意識したのち生徒がテーマを設定する。
②情報収集	・企業の HP ・SDGs との関わり	・SDGs INDEX	・データサイエンス (gacco、RESAS、e-STAT)
③外部組織との連携	・県内の大学 ・企業 ・事業者 ・自治体	・大学 ・企業 ・JICA 海外協力隊 OB ・NPO	・学校 (小中高大、高専) ・NPO ・学術研究機関 ・自治体 ・企業
④インタビュー方法	・「持続可能な社会づくり」に関する質問事項の作成	・アクションプラン企画提案会	・プロジェクトへのフィードバック
⑤まとめの方法	・振り返りシート ・礼状 ・レポート	・動画でまとめる	・探究論文・ポスター・動画・コンテスト等応募形式
⑥発表の場	・小グループプレゼン ・学年発表会 ・他校との交流授業	・外部組織への発表 ・学年発表会 ・学校発表会 ・地域内発表会 ・各種コンテストへの参加	・外部組織への発表 ・学年発表会 ・学校発表会 ・地域内外発表会 ・各種コンテストへの参加
⑦生徒同士の学び	・付箋によるコメント (中間発表会) ・相互評価 (プレゼン)	・相互評価	・相互評価
⑧振り返り	・キャリアパスポート	・キャリアパスポート	・キャリアパスポート

## ①テーマ設定は？

	Step1 [知る]	Step2 [広げる]	Step3 [変える]
①テーマ設定	・SDGs と関連し、地域と関わりのあるテーマを教師が用意。生徒が選択する。	・世界の課題から、生徒がテーマを設定する。	・ESD 目標を地域版に意識したのち、生徒がテーマを設定する。

Step1 から地域→世界→地域や世界、と段階を経ることで、Step3 では諸課題に「自分も取り組みたい」という気持ちがマックスになります。また、Step2 で一度地域から離れてみることで、地域の魅力や課題がより浮き彫りになります。段階を経るごとに自らテーマを設定できるようになります。

### 〈Step1 テーマ例〉地域と関わりのあるテーマ

最初のステップでは、地域と関わりのあるテーマを教師が複数用意し、生徒に選ばせてもよいでしょう。外部組織にインタビューをする場合は、このテーマ設定の段階からテーマに関連のある企業等にアポイントメントを取っておくと良いでしょう。

(例)「外国からの持続可能な原材料調達と印刷産業」「気候変動・地球温暖化の実際と対策を学ぶ」「持続可能なエネルギー生産とは?」「教育・芸術×SDGs～平和で公正な社会を当たり前に～」「水辺から始まる生態系ネットワーク」「地球や人に優しいエシカルな消費とは?」「障がい者の活躍～就労支援×チョコレート～」「省エネハウス×SDGs～日本エコハウス大賞の要因を探る～」「一歩進んだ地球温暖化対策とは?」「私たちにできる国際協力を学ぶ」「地域の再生可能エネルギーで地球温暖化STOP!」「持続可能な社会づくりのための銀行の役割とは?」「世界農業遺産に登録された地域が目指すものとは?」「日本初!米を原料としたバイオマスプラスチックとは?」「人と街と地球に優しい家づくりとは?」「テクノロジー×大学×SDGsで世界の課題解決へ!」「SDGs未来都市の取組とは?」「北国で南国フルーツがとれる理由～地域資源を活かした循環型農業～」「SDGs×スーパーの取組とは?」

### 〈Step2 テーマ例〉私たちがつなげる「ジモト」と「セカイ」

中学1年で学んだ地域と関わりのあるテーマ学習を生かして、自分の住んでいる町と世界との関わりを考えます。

(例)IT企業と連携して、ネパール農村部の販路を拡大しよう／観光協会と連携して、ガラバゴス諸島のオンラインスタディツアーを企画しよう／漁業組合と連携して、新鮮な魚の販路を拡大しながら海の豊かさを守ろう／森林組合と連携して端材を用いた工芸品を販売しよう

### 〈Step3 テーマ例〉ESDの目標

SDGsを活用した地域探究経験者向きです。地域の課題をSDGsを通して捉え直します。何を目的に学ぶのか、学びを通してどのような思考態度やスキルを身に付けるのか、ユネスコが掲げる教育目標に照らし合わせて考え直してみます。少し高度な活動ですが、「みんなと一緒に探ってみる」という感覚で取り組むと楽しくなると思えます。難しい言葉を自分たちの状況に合わせて意識すると、ユネスコが掲げる目標もぐっと身近に感じるようになります。この活動をしたからテーマが浮き彫りになるというより、この活動を経ることで、これから取り組む探究活動が最終的にどのような力の育成につながるのか、という「振り返りの視点を得ること」につながります。



## 〈その他の例〉

### (1) 日本が抱えている社会課題から

- ・SDGs を視点に、日本が抱えている社会課題や様々な取組を知り、〇〇市でできることを考える。(社会課題解決中 MAP より)

(選んだ課題について、現在行われている取組について、〇〇市の課題に繋がると思うこと、〇〇市で行っている取組、課題解決のために、自分ができること)



### (2) 問いづくりから

- ・持続可能な地域づくりや社会課題の解決に取り組む『問い』を立てる。

(興味のあるテーマを選ぶ、情報・データ収集、仮説・発見「〇〇すれば～になるのではないか?」、問いづくり「課題解決型の問い」「資源活用型の問い」)

#### 【参考文献】『実践 地方創生×SDGs 持続可能な地域のつくり方

未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン』 寛裕介 著 (英治出版)

### (3) 「地域を歩いて気づいたこと」から

- ・地域巡りをした後で「20年後も30年後も残したい〇〇地区の魅力は?それを残すためにすべきことは?課題は何だろう?中学生ができることは?」の問いに対して、マインドマッピングで書き出し、テーマを絞る。

### (4) 「首長メッセージ調査×アクションカードゲームクロス」から

- ・HPを見れば手軽に首長メッセージを知ることができます。首長は地域の課題をいつまでにどう取り組もうとしているのか、それにどんな人が賛同/反論しているのか、これを考えることで地政理解も進みます。首長に実際に話してもらうとより身近に課題を捉えられます。(下図その1参照)
- ・地域課題の理解を踏まえてアクションカードゲームクロスに取り組むと、限られたリソースから発想を広げる楽しさも味わえます。その後のテーマ設定に役立つでしょう。



### (5) 地域会議を通して

- ・地域では様々な団体による会議が行われています。どのような団体がいつまでにどんなことをどのように達成しようとしているのか、実際に見たり聞いたりできます。課題そのものが見えるのでテーマ設定に直結します。(下図その2・下図その3参照)

## 第1回津南未来会議(5/28)(その1)

- ・桑原町長・・・日本一生き生きとした町を目指したい!しかし、課題を先送りしている、人口減少が激しい、がけつぶちだ、しかしまだリカバリーするチャンスはある、皆の知恵と活動を結集して未来を切り開きたい、解決策の一つが人々の交流によるつながりづくり、町の中の住民同士と住民とよその人のつながりを活発にすることで課題を乗り越えていきたい、そのために既存の組織を超えたDMOを課題を乗り越える場として創り上げたい。

## 地域がよくなるためには(その2)

- 現状の問題点、心配、不安!
    - ・近隣がシャッター街に、子ども達が外で遊ばない、秋山郷の10年後は大丈夫か、雪の魅力と言ってもスノーボードしか楽しめない、子ども達が閉じ込められた環境にすぎない
  - こういう町でありたい、10年後にはこんな町にしたい!
    - ・子ども達に戻ってこいと自信を持って言えるように、高齢者が暮らしたい町ナンバーワン、都会の人が望むものがある町
- 皆で議論してこういう取り組みをしたい!

## 皆で議論してこういう取り組みをしたい(その3)

- ・移住しやすい仕組み
- ・農村の景色を守る
- ・子ども達が外で遊べるように
- ・お年寄りが生き生きとしている場
- ・皆が共生できるように
- ・つながりを大切にする町
- ・子どもと大人をつなげる場
- ・横つなぎ出来る町
- ・津南学など地元を知る活動
- ・農業で稼げるように
- ・世帯所得をアップさせたい
- ・観光客など外の人から評価されるように
- ・なじもんを縄文体験アトラクション施設に
- ・民泊
- ・特産品の販路拡大
- ・おにぎりギネス挑戦
- ・まちなかにお金を落とす仕組み
- ・おいしいものなどを発信
- ・グリーンツーリズムジオツーリズムを活かした教育旅行
- ・最大の財産である雪を活かす





### 〈Step3 情報収集例〉

教師のサポートをほとんど必要とせず、自ら情報収集からまとめ方まで、場合によっては発表方法まで盛り込んだプランニングになります。

- ・ gacco：無料の学習プラットフォームです。メールアドレスを使ってアカウントを作成後、必要な情報にアクセスします。自分のペースで学習できます。グループは視聴するプログラムを分担するとよいでしょう。統計手法やAIを使ったビジネス展開などについても学習できます。



- ・ RESAS：地域経済分析ツールで、課題発見&分析&解決、情報収集&分析&活用、論理的思考、プレゼンテーション、それぞれ授業モデル指導案を入手できるので、ねらいに応じて活用することも可能です。生徒が使用する場合は、テーマが決まった段階で活用すると多角的・複眼的に課題に迫ることができます。また、テーマに応じて表やグラフなどが自動出力されるので作成の手間が省けます。コロナ禍の経済関連も調査できます。内閣府地方創生推進室主催の「地方創生・政策アイデアコンテスト」と連動しているので、RESASを活用した探究をコンテストに応募したり、他団体の発表を聞いたりして、新たなつながりを作る場としても使えます。



- ・ e-STAT：政府統計を活用するためのツールで、テーマが明確な場合に役立ちます。主張をより客観的にサポートするために活用します。RESASと同じく表やグラフを自動出力してくれるので作成手間が省けます。



### ③ どのような外部組織と連携する？

	Step1 [知る]	Step2 [広げる]	Step3 [変える]
③外部組織との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の大学</li> <li>・企業</li> <li>・事業者</li> <li>・自治体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学</li> <li>・企業</li> <li>・JICA 海外協力隊 OB</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校 (小中高大、高専)</li> <li>・NPO</li> <li>・学術研究機関</li> <li>・自治体</li> <li>・企業</li> </ul>

Step1 から Step3 と段階を経ることで自発的に、かつ zoom 等のデジタルデバイスを活用して地理的・金銭的・時間的な問題も解決しながら組織にアプローチできるようになります。一度関係が確立できた団体とはその関係を継続したいものです。様々な人を巻き込みながら探究が展開されます。

#### 〈Step1 の例〉

連携する外部組織は、生徒や教師がインターネットや新聞、書籍などから見つけたり、ネットワークを使い繋がったりと様々です。外務省の Japan SDGs Action Platform (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/case/org1.html>) には、SDGs に取り組む全国の企業の HP リンクがあります。こちらから調べても良いでしょう。「地域創生プラットフォーム SDGs にいがた」の情報を参考にし、リストアップした例は以下の通りです。

	各班の探究テーマ	SDGs 実践エキスパート (敬称略)
1	電気自動車を活用した地域 SDGs の取組とは？	新潟国際情報大学
2	地域の再生可能エネルギーで地球温暖化 STOP!	新潟スワンエナジー (株)
3	持続可能な社会づくりのための銀行の役割とは？	(株) 第四銀行
4	SDGs × スーパーの取組とは？	原信ナルスオペレーションサービス (株)
5	島の大自然や人の温かさをたっぷり詰め込んだゲストハウスの魅力とは？	粟島ゲストハウス おむすびのいえ
6	世界農業遺産に指定された地域が目指すものとは？	佐渡市の農業従事者
7	新聞社 × SDGs ～『地方創生プラットフォーム SDGs にいがた』が目指すこと～	(株) 新潟日报社
8	SDGs × 循環 × 地域の特産物『バナナ』とは？	シモダ産業 (株)
9	日本初! 米を原料としたバイオマスプラスチックとは？	(株) バイオマスレジン南魚沼
10	SDGs 未来都市の取組とは？	見附市
11	外国からの持続可能な原料調達と製紙業	北越コーポレーション (株)
12	村上市で南国フルーツがとれる理由は？ ～地域資源を活かした循環型農業～	(株) 開成

	各班の探究テーマ	SDGs 実践エキスパート（敬称略）
13	地球や人に優しい消費のあり方とは？	にいがたフェアトレード推進委員会
14	水・食・エネルギー× SDGs	(株) テクノシステム
15	人と街と地球にやさしい家づくりとは？	(株) ナレッジライフ
16	SDGs に本気で取り組むコーヒー店の魅力とは？	(株) 鈴木コーヒー
17	テクノロジー×大学× SDGs で世界の課題解決へ！	長岡技術科学大学
18	水辺からはじまる生態系ネットワーク	水の駅 ビュー福島潟

### 〈Step2 の例〉

この段階では生徒が考えた地元企業と各自で設定した相手国との間で連携できるアクションプランの企画を深めていきます。教師はあらかじめ大学のゼミナールや上級学校と調整をし、生徒の企画を評価してもらうよう依頼します。生徒に早い段階でアウトプットの機会を提供することで、企画を言語化し、より具体的なアイデアを作り上げます。

### 〈Step3 の例〉

テーマに応じた団体に各々でアプローチします。取り組み（プロジェクト）が多くの関係者に及ぶほど、教師のサポートも必要になります。大きくて良いインパクトが想定される場合は、そのプロジェクトを学年や学校全体の行事やカリキュラムに取り入れることも考えます。大きくて良いインパクトは外部組織の協力が必須で、「特定の生徒だからできた」のではなく「この学校の誰でも取り組める」プロジェクトとして長期的スパンで学校に根付かせることが大切です。

### 〈その他の例〉

- ・ 各種レポート（SDGs 関連）で頑張る組織を知りコンタクト

## ④インタビュー方法は？

	Step1 [知る]	Step2 [広げる]	Step3 [変える]
④インタビュー方法	・「持続可能な社会づくり」に関する質問事項の作成	・アクションプラン企画提案会	・プロジェクトへのフィードバック

インタビューは枠にはめてスタートしますが、Step を経るごとに連携目的が変化していきます。社会変革に本気で取り組む当事者と関われる経験は何物にも代えがたい貴重な経験になります。児童や生徒の本気度も高まり、それが当事者の本気度も高めることにつながります。

### 〈Step1 の例〉

最初のステップでは、事前学習をした後、学びたいことを「質問事項」にまとめ、インタビューの担当者に事前に送ります。調べ学習ではなく、実際のインタビューだからこそ学べることを質問するよう班内で深めましょう。

(例)

- ・「越後バナーナ」は、これまでにどのような人たちが関わってできたのでしょうか。
- ・環境保全のために、中学生ができることはありますか。
- ・現在使用している肥料にSDGsは関係していますか。関係している場合は、どのゴールに関係していますか。
- ・世界農業遺産に認定された9年間で、どのような変化がありましたか。
- ・佐渡の学校で、「朱鷺と共生を目指す米づくり」について学習することはありますか。
- ・「SDGs にいがた」の会員の皆様と、これからどのような取組をしていきたいと考えていますか。
- ・SDGs を自分事にするために、新聞を読む時のポイントはありますか。
- ・「地域循環共生圏」とはどのようなことでしょうか。
- ・食品ロス対策として、何か工夫して取り組んでいることはありますか。
- ・御社のバイオマスプラスチックは、新潟県内で、どのような製品に、どれくらい使われているのでしょうか。また、県外での使用はありますか。
- ・バイオマスプラスチックの原料に米を選んだ理由は何ですか。
- ・現在、私たちはSDGsについて学習しているところですが、御社の取組に私たちが貢献できることはありますか。
- ・普段物を購入する際、商品の選択や消費において、私たちが気を付けるべきことがあれば教えてください。

### 〈Step2 の例〉

自分たちの企画をスライドにまとめ、大学生に提案します。大学生にはあらかじめ企画の主旨を伝え、ゼミナールの研究内容とも関連づけられるように調整を行います。提案方法は、オンライン会議システムを使用し、移動のコストを下げました。生徒には企画提案の主旨を伝え、プレゼンの仕方やマナーについて指導を行います。やり取りの内容はワークシートに記入させ、改善点について共有を行います。

### 〈Step3 の例〉

良いフィードバックをもらうには誠意が大切です。すごい人はだいたい忙しいです(笑)。スピード感を持つて対応するためにもメールやSNS、共有プラットフォームなどを使いこなすようにして誠意を忘れず行動することを心掛けたいものです。また、失敗もつきものです。失敗にめげないガッツ (grit) も大事ですが、落ち込んだ時はサポートが必要です。サポート体制も確立しておきたいものです。

### 〈その他の例〉

- ・インタビューを通してキャリアを開拓してきた大人にインタビューの心構えを聞く
- ・SNS・メール・電話・手紙・コネ





## ⑥発表の場は？

	Step1 [知る]	Step2 [広げる]	Step3 [変える]
⑥発表の場	<ul style="list-style-type: none"><li>・小グループプレゼン</li><li>・学年発表会</li><li>・他校との交流授業</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・外部組織への発表</li><li>・学年発表会</li><li>・学校発表会</li><li>・地域内発表会</li><li>・各種コンテストへの参加</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・外部組織への発表</li><li>・学年発表会</li><li>・学校発表会</li><li>・地域内外発表会</li><li>・各種コンテストへの参加</li></ul>

Step1 から Step3 と段階を経ることで、より大きな発表の場をたくさん経験することになります。一度の経験で終わることなく、何度も経験する機会を与えましょう。失敗も経験するかもしれませんが、それが糧となり自信につながるよう導きます。

### 〈小グループの例〉

ブレインストーミングや場慣れがねらいです。様々な意見が出やすい雰囲気づくりが大切です。発表することが「心地よい」「ためになる」「もっと発表したい・知りたい」と思えるよう配慮する必要があります。

### 〈学年の例〉

共通の評価の観点を事前に共有します。共通の目的を共有することが大切です。

### 〈学校の例〉

聞き手が自分より年上か年下かで使う言葉等が変わります。目的に応じて伝える内容を吟味します。教師は学校全体のカリキュラムのねらいも更新するつもりで取り組みを評価します。

### 〈学校外の例〉

聞き手の状況に応じて伝える内容を吟味します。評価の観点が示されている場合はそれに則ります。また、この段階ではインパクトを与えることが目的なので、その目的が達成されたかを評価するようにします。

### 〈英語での発表〉

学習外国語を使用する機会を設けると授業や家庭学習の取り組み方法が変わります。通じる喜びを経験できるよう最初は入念に準備させ、段階を追って最終的には教師の支援なしでも意思疎通できるようスモールステップを用意します。

## ⑦生徒同士の学びをどう促す？

	Step1 [知る]	Step2 [広げる]	Step3 [変える]
⑦生徒同士の学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>付箋によるコメント (中間発表会)</li> <li>相互評価 (プレゼン)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互評価</li> </ul>

Step1 から Step3 と段階を経ることで、教師のサポートや評価の割合を減らします。自分たち同士の評価で学びを更新していけるようにします。互いの評価が見えるようデジタル共有を活用します。仲間の評価が一番の原動力です。

### 〈Step1 の例〉

Step1 では、プレゼン大会の時に、右図の相互評価紙を使って相互評価を行いました。「聞き手へのプレゼントとして一生懸命プレゼンした人たちに敬意を表し、心をこめて評価・メッセージを書こう」と伝えると、生徒は緊張感をもってプレゼンを聞きますし、学びや感想等を評価用紙に記入していました。前半・後半のプレゼンで一人 10 枚の評価用紙を書いてもらうこととなります。プレゼン時は緊張しつつも、多くの仲間からのメッセージを読んで、生徒はとても嬉しそうでした。

また、1年間の振り返りをした後も、生徒同士で学びを共有する時間を設けました。「仲間の考えやアイデアを引き出し、自分の学びに活かそう」と投げかけ、お互いにインタビューを行いました。1年間の仲間の成長を実感できる時間となりました。

### 〈Step2 の例〉

作成した動画を学校内で期間を決めて公開することにより、相互評価の場を設定します。視聴した後に、アンケート集計ソフトなどに入力することで企画の面白さや改善点が見つかることとなります。

総合的な学習の時間 2月18日(木) 6限  
**仲間の考えやアイデアを引き出し、自分の学びに活かそう**  
 1年 組 藤 氏 氏 ( )

★ 3月に、同県立三川中学校の1年生とオンライン交流授業を行います。三川中学校の生徒さんは、SDGsの学習を通して世界の課題を考えたり、地域を活性化させるための活動を行ったりしています。三川中学校と三川中学校の1年生が、それぞれの学びを共有することで、今後の活動のヒントがたくさん得られると思います。当日に向けて、準備をしたいと思います。

★今日の目標★  
 ●【発表者】1年間の総合学習の学びを、相手に分かりやすいように伝えることができる。  
 ●【受け手】発表者の思いや考えを引き出し、適切なインタビューをすることができる。

★授業の流れ★  
 ① プリント返却 (プレゼン準備、1年間の学び振り返りシート、代表者プレゼン感想シート) (5:50)  
 ② 「1年間の学び振り返りシート」と「インタビューの仕方」の説明・確認 (5:50)  
 ③ 「1年間の学び振り返りシート」見直しタイム、発表の準備をする。(5:50)  
 ④ インタビュー＆発表タイム (4限後半5:50～6:40)  
 ※接続と、3回行なう。【1回目】横ペア 【2回目】横ペア 【3回目】縦ペア  
 ⑤ 自分の「1年間の学び振り返りシート」を読み直し、修正する。(5:50)  
 ⑥ 感想記入タイム (5:50)

★インタビューの流れ★  
 ペアでじゃんけんをする。勝った人は「受け手」、負けた人は「発表者」。4分で交代。  
 ※あいさつからスタート！「インタビューのやり方」を思い出します！(発表者のコメント、受け手の質問も！)

【受け手の質問】  
 ① 「オンライン新潟巡検×SDGsインタビュー、レポート作成やプレゼン大会を終えて考えたこと」を教えてください。  
 ② 総合的な学習の時間で1年間の学びを経て、あなた自身に何か変化はありましたか。  
 ③ 総合的な学習の時間で1年間の学びを、これからの生活や、学習、今後の生活にどのように活かしていきたいですか。  
 ④ 「1年間の学びを活かして、2年生や3年生でやってみよう」と教えてください。  
 ※お礼でインタビューを締めくくります！(以上で、インタビューは終わります。お礼のコメントをお願いします！)

使ってみよう！会話を楽しく、深めるための表現集  
 ★コメント  
 「〇〇がすごいですね！」「私もそう思いました！」「〇〇の考え、素敵ですね！」  
 「〇〇を聞いてとても興味をもちました！」「〇〇を聞いて私も調べてみようと思いました！」など  
 ★深める質問  
 「〇〇のことを話していましたが、詳しく教えてください」  
 「〇〇について、あなたはどのように感じましたか？」「具体的に、どんなことをしてみたいですか？」など

※インタビューは、「聞き手」と「ライナー」両方行う。  
 なるべく自然な会話になるように意識しよう！発表者が気がおくれそうに思ったら、優しく、手拍子、思い返して、「コメント」や「深める質問」を入れて、全時間、話を続けよう。  
 イメージは新聞記者。会話を深めるために、メモをとる！

発表者①のメモ

発表者②のメモ

発表者③のメモ

今日の感想や発表やインタビューを経験して、考えたこと、学んだこと、大切に思ったことを記録しよう。



## ⑧自身の生き方・あり方を考える振り返りは？

	Step1 [知る]	Step2 [広げる]	Step3 [変える]
⑧振り返り	・キャリアパスポート	・キャリアパスポート	・キャリアパスポート

キャリアパスポートに1年間を振り返り、言語化して記録を残します。1年後、過去の自分を振り返ることによってStep1からStep3、それぞれの段階で深い振り返りが展開できます。

### 〈Step1の例〉

Step1では、下記の項目で振り返りを行いました。これをキャリアパスポートと連動して行うと中高の探究ポートフォリオができます。

- オンライン新潟巡検×SDGsインタビュー、レポート作成やプレゼン大会を終えて考えたこと、学んだこと、自分の変化、気づき、感想など。(仲間のプレゼンを聴いて学んだこと等)
- 総合的な学習の時間での一年間の学びを経て、自分自身の変化。(興味・関心、考え方、学び方、気づき、生活、行動、など)
- 総合的な学習の時間での一年間の学びを、これからの生活や、学習、今後の生き方(進路選択・職業選択)にどのように活かすか。
- 1年間の学びを活かして、今後やってみたいこと。(職場体験、修学旅行、地域貢献活動に向けて)



### 〈Step2の例〉

職業調べ、職場体験、国際理解を「ジモト」×「セカイ」というひとつのテーマで繋ぐことにより、それぞれの活動が独立することなく、相互に影響しあう仕組みが構築できます。特にSDGsという視点をもって地元の企業と関係していくことは、将来的な地域開発にも発展するため生徒のキャリア形成を促すという点においては、有効な活動だと考えます。これをキャリアパスポートと連動して行うと中高の探究ポートフォリオができます。

### 〈Step3の例〉

- テーマ設定で作成した地域版ESD目標を用いて、ユネスコが掲げる8つのキーコンピテンシーのうち、どの思考態度やスキルが、どの活動を通して身についたのか振り返ります。また、ESD目標を地域の実情や探究活動に合わせて更新し、下級生に引き継ぎます。ESDは英語で作成されているので、諸外国との相互評価にも活用できます。キャリア形成を系統立ててポートフォリオとしてまとめている国や地域があります。それらの国と日本のキャリアパスポートを比較しながら21世紀型スキルについて考察させると有意義な振り返りになります。
- 定期考査に探究活動を出題することも可能です。共通テストでは情報処理力がますます求められるようになり、統計的解釈力も磨く必要が高まりました。探究活動を外部に発信するためには客観的解釈や考察力が必須で、そのためには探究活動をそれだけで終わらせるのではなく授業と関連付けることが理想です。右図は英語表現に出題した図表の読み取りに関する問題です。防災に関わる探究活動を展開したグループ

から依頼され、授業で諸外国と防災について議論しました。その中で行ったアンケートからコロナ禍の対応やその受け止め方が諸国で有意に異なる結果が出ました。グラフを説明し、どう解釈できるかについて80語程度で説明する問題で、説明と解釈6点、語彙と文法4点の配点です。定期考査も視野に入れて探究活動を展開すると、探究活動の主体性が活かされ、結果的に授業も主体的に取り組むようになります。定期考査にどのように探究活動を出題できるか、検討の価値は高いです。

**定期考査の思考・判断・表現力問題より**

**コロナウイルスに対して**

**【説明】**  
日本人：想像も対応もできないと回答  
NZとインド：大多数は想像できると回答  
NZ：大多数が対応できると回答

**【解釈】**  
コロナにどんな影響を受けたかの違い  
インド：ロックダウン+被害大  
NZ：ロックダウンで被害小



**<その他の例>**

- ・SDGs アイデアブック：他校と協力して地域版 SDGs アイデアブックを作成するとより達成感が高まります。自校独自のブックも Think the Earth 提供の下記リンクからアクセスして作成できます。

<http://www.thinktheearth.net/sdgs/members/>



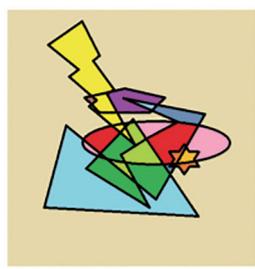
**SDGsアクション in Tsunan**  
(Private power generation starting from Tsumari)

**Making energy from garbage**

**Create a gentle generator for the earth and us.**

Around the world, there are a lot of generators such as thermal power generation and nuclear power generation. Both of them use fossil fuels and uranium. They are not efficient and harm the environment. So these days, many people have been researching a new type of generators. I am one of them.

One day, I found that the 70 percent of garbage were moisture and the 70 percent caused stench. I thought how to solve these problems and came up with an idea to use the moisture for generation. This is the image of the mechanism of this generator. Getting moisture from garbage by heating, rotating a motor by using moisture and charge the battery. In this way, people can use energy whenever. I hope this machine are completed sooner.




- ・〇〇版天声人語（607文字）：天声人語に倣って限られた字数で物語風に探究活動を振り返ります。地域にまつわる写真と関連するSDGsを選び、物語風にまとめると生徒の本音がポロっとこぼれ、自己の在り方や生き方に触れるよいきっかけとなります。

前年の大雪で夏には川から水が消えたが、一転冬には氷を食すほどの大雪となった。降雪作業中に次々とながてくるニュースが流れ、誰からは降雪作業上の注意事項が呼びかけられる事になった。▲雪崩、火筒たてた体を凍やしてとれるこの前にはははがれ子と恐れ、同時に大坂から来た父が心配する。「君はよくこつやっつて来たんだ。」という父に連れられて夢中になって着て、任せて、川と並れた跡は日々が凍かしく、水がたらしてくれる痛みも一瞬で身を解す痛風もこうして体が解えていった。▲本朝山崩れ夕日が見え、朝の雪が降りて午後には雪の地帯から生徒が凍死、凍傷を訴える。そんな学校に突如飛び込んだ「舞臺停止」のニュース。1年生はまだ「15歳生」である。卒業生が立ち上がり「津南中学を守る会」が発足した。▲先日からこの地の人々が危機感と技術を磨いてきたが、急に雪が降りたのは驚かされた川から水がなくなるという事があった。雪の降りた日は、15歳の本校をのぞいた人が思いがけない。地球規模の環境破壊も人の志願による都市化の恐れもまったなしで取り留まないとはいかない課題である。ジャンプドとして...▲当たり前のように雪で川で泳いでいられなくなった子供達の顔で保った川を泳ぐ日は、早くも自分がすべきことを誓う。テクノロジーとくまなく付き合いながら決して壊されぬ、その決心を強く抱いた令和3年であった。(607字)



- ・キャリアパスポート（新潟県書式より）

様々な様式の探究論文やポスターが各種コンテスト等で提示されている。右図のキャリアパスポートは一例で、どれだけ大規模なプロジェクトに発展したとしても、この1枚に1年間の探究活動をまとめることは、児童生徒が自分のあり方や生き方を振り返るよい機会になります。

「総合的な学習（探究）の時間」（課題研究等）について ○年

【事前】 記入日 年 月 日

【探究】テーマ（課題研究）テーマ

テーマ選択の理由

探題を通じて特にどんなかを伸ばしたいか <探題>

【事後】 記入日 年 月 日

探究した内容の探題（探題の成れや探題を通じて新たにわかったことなど）

探題の過程で感じたこと・考えたこと（300文字以内）

探題を通じてどんなかを伸ばしたか（成長したところ） 探究活動の感想、新たに学んだことや探究テーマ等